



柳沢中学校だより

# 朱雀の翼

西東京市立柳沢中学校  
校長 浅野 周子  
電話番号 042-463-5014  
FAX番号 042-462-3104  
令和5年5月22日 第2号

## 対話から生まれること



いよいよ6月10日の運動会に向けて、プロジェクトが動き出しました。今月31日からは、3年生の修学旅行も予定されています。くれぐれも、当日の朝にのどの痛みや微熱などで慌てないように、出発まで体調管理を徹底してください。

行事に向けて班活動やクラス、実行委員を中心に話し合い活動の場面がたくさん出てきます。そこで、5月は対話を意識して生活してみてください。

1人1人の価値観が違うことは皆さんも理解していることでしょう。だからこそ、「対話」は、単なるコミュニケーションではなく、良好な関係づくりには大変重要なものです。対話という行為によって、お互いの価値観が共有されるからです。自分の価値観を発信することによって、他者に自分の価値観を理解してもらうことが可能になります。

アメリカの物理学者デヴィッド・ボームは自著『ダイアログ～対立から共生へ、議論から対話へ』の中で、「対話とは、相互理解を超えた、新しい何かを生み出す『創造的行為』だ。」と述べています。対話が創造的行為になる前提として、対話の相手を「こういう人だ」と決め付けた瞬間、相手へのイメージが固定されてしまい、そこから新しいものが生まれてくることはなくなってしまいます。

「創造的行為」として対話を行うには、自分の中にあるイメージや思い込みなど、あらゆる「決めつけ」から自分の視点を解放することが大切です。対話することによって、自分の中にある新しい面を知り、お互いを豊かなものに変えることができるのです。

心を開いて、オープンな姿勢で対話することで「創造的な対話」が可能になります。

また、「対話＝ディベート」だと思い込んでいる人が多くいますが、自分の視点の優位性を証明し、相手を打ち負かすことが問題の解決策を提示することになると勘違いしているようです。さまざまな問題を批判的な視点で捉え、他者と誤った「対話」をしている限り、何も生まれず、そのようなコミュニケーションは「創造的行為」にはなりません。

異なる考えや価値観をもつ人たちとお互いに理解を深め合う「対話」。この「他者との違い」を前提とした「対話力」こそ、ぜひ、柳沢中生に身に付けてほしい力です。

「対話」は、テーマはありますが、明確なゴールがありません。自分の意見と相手の意見を対等に扱い、どちらかが正しくてどちらかが間違っているということではなく、自分と違う意見を否定せず受け止めることが大切です。

社会がますます多様化し、多種多様な人々が集まった地域社会などは、大小さまざまなコミュニティーが形成されています。人種、年齢、性別、ジェンダー、宗教など、多様性に富んだ価値観を互いに認め合い、誰もが居心地よく、生きやすい社会をつくるためには「創造的対話」が不可欠なのです。

行事の準備が進められる中、自分の考えをしっかりとって伝えるとともに、相手の考えを受け止め、よりよい話し合い活動を通して成長していけるよう「対話」を意識してみてください。

## あいさつレベルを上げていこう

あいさつは、人とつながる魔法の言葉。  
あいさつから信頼関係が深まります。



挨拶されても、黙って通り過ぎる。  
反応がない。  
言っているつもりだが、相手に伝わっていない。



相手に言われてから、相手に伝わる声で挨拶する。  
頭を下げる。  
会釈する。



自分から  
先に挨拶をする。



授業や委員会、部活動で担当していない先生や来校者、地域の方に挨拶をする。



**おはよう**  
「あいさつ」は人とつながる魔法のことば

## 謎解きは、地域めぐりをしながら

**5月2日** 西東京市「ふるさと探究学習」の一環として、1年生は、西東京市内めぐり（地域めぐり）を班行動で実施いたしました。チェックポイントの1つでもある「下野谷遺跡」は、150～300メートルと東西の集落を合わせると関東最大級の規模ともいわれ、集落、住居などの構成が典型的で「縄文時代中期の研究の基礎となる資料が提示できる遺跡」と位置付けられているそうです。発掘開始から半世紀、史跡指定から6年を経て、施設が整備され「したのや縄文里山プロジェクト」として「復元ゾーン」と「イベントゾーン」で構成されています。

このようなすばらしい遺跡が本校から徒歩20分のところに「下野谷遺跡公園」として在ることは大変恵まれていることです。今回の校外学習では、仲間と一緒に行動しながら難問を解き、「地域を知る」ことや「協力する」ことの大切さを学ぶことができたのではないのでしょうか。



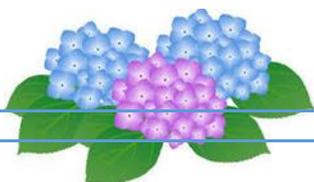
## 読む力、考える力、書く力UP作戦始めます

中間テストが終わり、ほっとしている人も多いのではないのでしょうか。今回のテストの準備は予定通りに進みましたか？先生たちは、少しでも早く皆さんの努力の結晶である答案を返却してあげたい気持ちから、一生懸命に採点に励んでいます。皆さんの努力が実っているといいですね。

さて、なぜ、勉強するのでしょうか。様々な人がいろいろな考えを述べています。大切なことは、自分ごととしてしっかり考え、自分が納得した回答にたどり着くことです。正解は1つではありません。

身近な大人に聞いてみるのもいいでしょう。本や資料を読んだり、インターネットを活用して情報を収集したりしていろいろな考え方を知ることとはとても大事なことです。その中から、自分が納得できるものを取り入れ、自分なりの答えを出してみてください。ちなみに私は、諸葛孔明の「学ぶことで才能は開花する」という言葉を知り、「なるほど」と納得して学ぶ意欲が向上しました。

今年度も各学級のクラスルームに「読む力、考える力、書く力UP作戦」を投稿しますので、ぜひ、自分なりの考えをまとめて提出してみてください。



## 進め！生徒が主役の柳中へ

**5月9日** 柳沢中学校では、生徒の皆さんが社会に出て上手に生き生きと生活していけるよう、さまざまな力を身に付けて卒業していくように、先生たちがさまざまな方法を考えて取り組んでいます。生徒総会は、自分たちの学校生活の向上を目的として作る組織を自主的に運営していく自治力の育成をねらいとしています。

生徒手帳の9ページに生徒会会則があります。目的として3点挙げられています。

1. お互いに協力し、積極的に自主活動を行う。
2. 健康で明るい学校生活を送り、よりよい校風をつくる。
3. 民主社会のよき形成者として基礎をつくる。

各委員会のリーダーからしっかりとした活動方針や活動内容が提案され、全校生徒からも承認され、スムーズな議事進行でした。また、たくさんの要望、質問や意見が出て活発な総会となり、まさしく、生徒による生徒のための生徒会運営ができていました。

日本では、政治に参加できる（有権者）年齢や成人年齢が20歳から18歳に引き下げられ、中学校を卒業して3年すると、有権者や成人となります。18歳になると、自分の意思を政治に反映させることや、保護者の同意なしでクレジットカードなどの契約ができるようになります。しかし、責任がついてくることを認識してください。その分、トラブルの発生も予想されます。そうならないためにも、政治や法律に興味をもち、民主主義の基本である運営方法や選挙を正しく理解し、進んで社会常識を学んでいきましょう。

係の仕事や班活動、委員会活動に積極的に参加したり、社会のできごとに興味をもってみたりして、身近なところから自分ができるところから取り組んでみてください。これからの日本の社会をつくっていく人になっていくという自覚をもち、ぜひ自治力を身に付けることを意識していけたらいいです。

